

# 名作の舞台から

## 映画『黒いオルフェ (Orfeu Negro)』 (ブラジル リオデジャネイロ)

会誌編集専門委員会

### 概要

1959年公開のフランス・ブラジル・イタリア合作映画。同年にカンヌ国際映画祭パルムドールとアカデミー賞外国語映画賞を受賞。翌年にゴールデングローブ賞外国語映画賞と英国アカデミー賞作品賞を受賞した名作。日本では1960年度「キネマ旬報」のベスト10で外国映画の6位に選ばれた。上映時間103分。

ブラジルの詩人で『イパネマの娘』の作詞者ヴィニシウス・ヂ・モライスは、ギリシャ神話のオルフェとユーリデイスの挿話を、カーニバルで盛り上がるリオデジャネイロを舞台に戯曲化。それをフランスのマルセル・カミュ監督が、カーニバルの踊り手たちの視点から描き、生涯の代表作となった映画である。

ブラジルの作曲家でギタリストのルイス・ボンファとアントニオ・カルロス・ジョビンが音楽を担当し、『カーニバルの朝 (黒いオルフェ)』を始めとするボサノヴァを世界的なブームにした。主人公が朝、ギターを弾いて歌うシーンが印象的だ。

出演者は全員黒人で、ほとんどがオーディションで選ばれた。オルフェ役のブレノ・メロはサッカー選手で、ユーリデイス役のマルベッサ・ドーンは歌とバレエの勉強をしていた。また、謎の男役のアデマール・ダ・シルヴァはブラジルの三段跳びのアスリートである。

### あらすじ

市電の運転手であるオルフェが住む、リオデジャネイロ港を見下ろす丘(バビロニアの丘を想定)にある貧しい村(いわゆるファベラ)では、明日のカーニバルに備え衣装作りに余念がなかった。



写真1 DVD『黒いオルフェ』のパッケージ



写真2 バビロニアの丘付近



写真3 岩山の斜面に形成されたファベラの一つ(貧しい村のイメージ)



写真4 リオデジャネイロ港のフェリーターミナル(ユーリデイスが船で来るシーン)



写真5 カリオカ水道橋を渡る市電(市電を運転するオルフェのシーン)

カーニバル見物に、その村に住む従姉セラフィナを訪ねて来たユーリデイスは、自分を追い回す謎の男を避けてオルフェの運転する市電に乗る。オルフェとセラフィナは隣人同士であった。ギターが上手で子供たちから慕われるオルフェには婚約者ミラがいたが、ユーリデイスに恋をしてしまい、二人で朝を迎える。

カーニバルの本番では、ユーリデイスがセラフィナの衣装を着てミラの目をごまかし、オルフェと共に踊る。しかし、そのことがミラにバレて争いが起きる。その場を逃げ出したユーリデイス、今度は謎の男に追い込まれ、真っ暗な市電の車庫に逃げ込む。そして高圧線を掴んだその時、助けに駆けつけたオルフェが電源のスイッチを入れたため、ユーリデイスは感電死してしまう。

オルフェはユーリデイスの死を受け入れ難く、深夜の街を彷徨する。夜明け頃、死体安置所のユーリデイスの遺体を抱いて、恋を語らった高台に来たオルフェ。そこで、嫉妬に狂ったミラの投げた石を頭に受け、ユーリデイスと共に崖から落ちて死んでしまう。死によって結ばれる二人。そして、太陽が昇った丘で歌い踊る子供たちの姿。ギリシャ神話から続く悲恋をこれからも繰り返すような暗示で、映画は終わる。

### 舞台の街「リオデジャネイロ」

ブラジル南東部に位置するリオデジャネイロ州の州都であるリオデジャネイロは、1960年にブラジリアに遷都するまでは首都であった。今夏、第31回夏季オリンピックが開催される。

17世紀に生まれたサンバは黒人の踊りが起源だ。打楽器だけのシンプルリズムで踊っていたが、リオデジャネイロでポルトガルを始めとするヨーロッパ舞曲の影響を受け、今のような形に進化した。1940年から現在のようなカーニバルになりコンテストが実施されるようになった。

また、カリオカとはリオデジャネイロ市生まれのブラジル人のことであり、先住民の「白人の家」を指す言葉から転じたものらしい。おおらかで冗談好き、人生の楽しみ方を人一倍知っているといわれる。サンバを生み、カーニバルを催し、ビーチ沿いのライフスタイルを作り上げた人々は、ブラジル人としてよりもカリオカであることを誇りに思っている。

貧民街を指すファベラはリオデジャネイロ各地の岩山に広がり、住民の多くは善良な市民である。先のサッカーワールドカップやオリンピックへ向けた警察の治安対策が成果を上げ、犯罪組織は姿を消しつつある。その結果、ファベラの観光ツアーが始まったりもしているが、まだ安全な場所とは言えず、近づかない方が賢明だ。(文 塚本敏行)

#### <参考資料>

- 1) 『黒いオルフェ』DVD 2002年 株式会社アイ・ヴィー・シー (<http://www.ivic-tokyo.co.jp/>)
- 2) 『allcinema ホームページ』 (<http://www.allcinema.net/>)
- 3) 『るるぶ情報版 ブラジル・アルゼンチン』2014年1月 JTB/パブリッシング
- 4) 『WERDE OFFICE ホームページ』 (<http://www.werde.com/movie/cw/new/orfeunegro.html>)
- 5) 『外務省 ホームページ』 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/>)

#### <写真提供>

写真1、5、6、7、8 塚本敏行 写真2、3、4、9 近藤安統



写真6(左) かつて路面電車の車庫だった旧路面電車博物館(オルフェとユーリデイスが出会い、ユーリデイスが感電死するシーン)  
写真7(右) パラダ停車場(ユーリデイスが乗るイメージ。現在、試運転の終着駅)



写真8 リオブランコ大通りのオベリスク(オルフェがユーリデイスの遺体を抱き運ぶシーンで登場)



写真9 バビロニアの岩盤が露出する急崖(二人が転落するシーン)